① 今 官一（こん かんいち） 文学碑

市立弘前図書館隣
下白銀町2−1
平成18（2006）年12月8日建立

今官一（1909年〜1983年）は、弘前市西茂森町に生まれる。
東奥義塾に在学中、福士幸次郎との出会いから文学に開眼する。上京して太宰治、檀一雄らと交流を交わしながら創作活動に励んだ。戦前にも多くの作品を書くが、昭和31年に直木賞を小説集『壁の花』で受賞する。代表作に『幻花行』『巨いなる樹々の落葉』がある。
母校東奥義塾があった所に立っている。

② 今 官一の墓

蘭庭院
西茂森町2−9

今官一は、昭和55年1月に病気のため弘前に帰ってきたが、昭和58年3月1日に弘前市内の病院で亡くなる。生家の蘭庭院の墓に眠る。
今家の墓の位置は、お寺で案内を乞うと教えてもらえる。

花まぼろしの
世に在らば世も
幻の花ならん
官一

③ 福士 幸次郎（ふくし こうじろう） 文学碑

弘前公園三の丸
下白銀町1（博物館隣）
昭和32（1957）年10月13日建立

福士幸次郎（1889年〜1946年）は、弘前市本町に生まれる。
上京後、佐藤紅緑の書生となり、その薫陶を受ける。大正期、口語自由詩の詩集『太陽の子』『展望』を刊行する。関東大震災で津軽に帰郷し、「地方主義の行動宣言書」を発表して、地方主義思想の普及に努める。晩年に、古代文化研究の『原日本考』を刊行する。
福士幸次郎文学碑には、詩集『展望』から「鵠（くぐい）」の一節が刻まれている。鵠は白鳥のことである。

胸にひそむ
火の叫びを
雪降らさう
福士幸次郎

④ 一戸 謙三（いちのへ けんぞう） 文学碑

藤田記念庭園前
上白銀町8−1
平成9（1997）年11月3日建立

一戸謙三（1899年〜1979年）は、弘前市本町に生まれる。
福士幸次郎に師事して、仲間と「パストラル詩社」を結成する。教職に就きながら詩の実作や詩評論で活躍する。
『自撰一戸謙三詩集』や四行詩集『現身』がある。
一戸謙三文学碑には、津軽方言詩集『ねぶた』の序詞「弘前(シロサキ)」の一節が刻まれている。

弘前（シロサキ）
謙三
お岩木山（ユワキサマ）ね守（マモ）らエで、
お城の周りさ展（フロダ）がる此のあづましいおらの街（マヅ）・・

⑤ 高木 恭造（たかぎ きょうぞう） 文学碑

まるめろ緑地
馬喰町18−1
平成2（1990）年10月21日建立

高木恭造（1903年〜1987年）は、青森市米町（現本町）に生まれる。官立弘前高等学校を卒業した後、青森日報社で福士幸次郎の地方主義の感化を受ける。これがのちに方言詩集『まるめろ』として結実する。その後、満州で現代詩や小説を書く。満州医科大学を卒業して、眼科医となる。戦後、弘前市で眼科医院を開業する。高木恭造は、医業のかたわら、小説や詩など創作活動を続けた。高木恭造文学碑には、『まるめろ』の「冬の月」の一部が刻まれている。

あゝ
みんな吹雪と同じせェ
過ぎてしまれば
まんどろだお月様だネ
高木恭造

⑥ 葛西 善蔵（かさい ぜんぞう） 墓碑

徳増寺
新寺町112
昭和39（1964）年7月23日建立

葛西善蔵（1887年〜1928年）は、弘前市松森町に生まれる。
上京して苦学しながら小説家をめざした。「哀しき父」「子をつれて」などの私小説作品を書き、芥川龍之介とともに大正期を代表する作家と評価されている。
葛西善蔵の墓の左側面に、葛西善蔵「湖畔手記」に出ている短歌が刻まれている。
葛西善蔵墓石の位置は、お寺で案内を乞うと教えてもらえる。

白根山雲の
海原夕焼けて
妻し思へば
胸いたむなり

⑦ 佐藤 紅緑・石坂 洋次郎（さとう こうろく いしざか ようじろう） 文学碑

朝陽小学校
在府町36
平成15（2003）年9月25日建立

陽気に元気に
生き〜と
紅緑書

佐藤 紅緑碑（左）　石坂 洋次郎碑(右)

生甲斐や
雪は山ほど
積りけり
洋次郎

朝陽小学校には、同校を卒業した小説家・俳人佐藤紅緑と小説家石坂洋次郎の文学碑が建てられている。佐藤紅緑「希望の碑」が校庭に、佐藤紅緑文学碑と石坂洋次郎文学碑が校門脇にある。
佐藤紅緑（1874年〜1949年）は、弘前市親方町に生まれる。明治・大正・昭和にわたって俳句、戯曲、小説の分野で活躍した。その少年小説は少年達を熱狂させた。
碑のある場所は学校の窓口で尋ねると教えてもらえる。休校日を除く。

佐藤 紅緑 希望の碑

朝陽小学校
在府町36
昭和55（1980）年3月9日建立

雀の子
飛ばんとしては
飛ばんとす
紅緑

⑧ 石坂 洋次郎（いしざか ようじろう） 文学碑

りんご公園
清水富田字寺沢125
昭和49（1974）年9月15日建立

石坂洋次郎（1900年〜1986年）は、弘前市代官町に生まれる。
小説家として戦前・戦後に活躍。代表作に『若い人』『青い山脈』『陽のあたる坂道』がある。小説集『わが日わが夢』は、弘前市が舞台となっている。

物は乏しいが空は青く
雪は白く、林檎は赤く、
女達は美しい國、それが
津軽だ。
私の日はそこで過され、
私の夢はそこで育くまれた。
昭和四十九年九月
石坂洋次郎

⑨ 石坂洋次郎の墓

貞昌寺
新寺町108

石坂洋次郎は、昭和61年10月7日、伊東市で亡くなる。墓は府中市多摩霊園にある。
同年11月、貞昌寺の石坂家の墓に分骨されている。
石坂家の墓の位置は、お寺で案内を乞うと教えてもらえる。

弘前の文学碑マップ

発行
弘前市立図書館
弘前市下白銀町1−2
電話（0172）35−5505
平成26年3月

⑩ 太宰 治（だざい おさむ） 文学碑

弘前大学文京キャンパス
文京町1
平成21（2009）年6月6日建立

太宰治（1909年〜1948年）は、北津軽郡金木村（現五所川原市金木町）に生まれる。官立弘前高等学校時代の3年間、弘前市内で下宿生活をする。太宰治は、『津軽』で高校時代を回想しているが、太宰文学の基礎が築かれた土地であった。
この碑は生誕100年を記念したもの。私には愛という専門科目があるという、『津軽』の一節を刻んでいる。大学構内には、津島修治（太宰治の本名）が刻まれた「官立弘前高等学校在校生名簿」碑がある。

私には、また別の専門科目があるのだ。世人は假りにその科目を愛と呼んでゐる。
人の心と人の心の觸れ合ひを研究する科目である。私はこのたびの旅行に於いて、主としてこの一科目を追究した。
『津軽』より

⑪ 太宰治まなびの家（旧藤田家住宅）

御幸町9−35
開館時間:10:00〜16:00（年末年始閉館）
入館料無料

大正期の建築様式を示す住宅（弘前市指定有形文化財）で、官立弘前高校在学中の太宰治の下宿先である。太宰治が使っていた部屋は、二階の一室で、使用した机や戸棚が展示されている。平成18年、元の場所から現在地に移築されている。

⑫ 石坂 洋次郎（いしざか ようじろう） 文学碑

岩木山総合公園
百沢字裾野195−1
平成13（2001）年5月27日建立

石坂洋次郎の「草を刈る娘」文学碑は、「青い山脈」歌謡碑とともに建てられている。昭和22年に石坂洋次郎が嶽温泉で執筆した「草を刈る娘」の一節が刻まれている。
文学碑の建っている岩木山の裾野が小説の舞台である。

岩木山の南側になだれた広い裾野も、津軽平野の中に散在する五、六ヵ村の草刈り場になっていた。
ここは、もっと奥の炭焼き部落に通うトラックの通路に添っていて、何かと便利がよかったし、一里ばかり離れた所に温泉も湧いており、少し早目に晩飯を済ませると、ゆっくり温まって来ることもできたので、毎年の草刈りは、馬を飼ってる百姓たちにとっては、楽しみな年中行事の一つになっていた。
で、その季節が来ると、百姓たちは、部落ごとに二十人、三十人と隊をなして、荷車に小屋掛けの材料や食糧や炊事道具などを満載して、裾野の高原に向かって出発する。
『草を刈る娘』より

⑬ 陸 羯南（くが かつなん） 文学碑

大狼神社裏　鷲ノ巣山
大和沢字中岸田38−1
昭和28（1953）年9月2日建立

大狼神社から東北自然歩道を歩いて10分。
陸羯南（1857年〜1907年）は、弘前（現弘前市）、在府町に生まれる。東奥義塾中退。上京して、太政官御用掛となり、官報局編集長となる。明治22年、新聞『日本』を創刊し社長兼主筆として活躍する。国民主義のもと新聞発行停止にも屈せず政府批判の論陣を張る。俳人正岡子規の庇護者としても知られている。
陸羯南文学碑は、弘前で揮毫された漢詩一篇が刻まれている。

名山出名士
此語久相傳
試問巖城下
誰人天下賢
羯南

文学碑マップ

マップ上のQRコードをスマートフォンで読むと、地図やナビ機能で迷わず移動できます。

※QRコードの読み方はスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

1 今官一 文学碑
市立弘前図書館隣

2 今官一 墓
禅林街
蘭庭院

3 福士幸次郎 文学碑
弘前公園 博物館隣

4 一戸謙三 文学碑
藤田記念庭園前

5 高木恭造 文学碑
まるめろ緑地

6 葛西善蔵 墓碑
新寺町
徳増寺

7 佐藤紅緑・石坂洋次郎 文学碑
在府町 朝陽小学校

8 石坂洋次郎 文学碑
りんご公園

9 石坂洋次郎 墓
新寺町
貞昌寺

10 太宰治 文学碑
弘前大学
文京キャンパス

11 太宰治 まなびの家
御幸町9

12 石坂洋次郎 文学碑
岩木山総合公園

13 陸羯南 文学碑
大狼神社裏
鷲ノ巣山